

森を守る人に 聞いてみた



飛騨市の面積の約94%を占める森林は、さまざまな恵みを私たちに与えています。

豊かな森は、その保水力で天然のダム役割を果たし、水を浄化してくれます。また、広葉樹の木々から生み出されるミネラルをたっぷり含んだ美味しい水は里へ提供され、田畑で育つ、美味しく健康なお米や野菜、果実などを通じて、私たちの生命や健康を育ててくれます。土の奥深くまで張り巡らされた樹木の根は、しっかりと大地を支え、豪雨などで土砂が流れ出るのを防ぎ、私たちの暮らしの安全を守ってくれています。近年の猛暑による急激な温度の上昇の緩和や防風、木材や山の恵みの提供、子どもたちへの学びや、観光の振興にも寄与しています。

しかし、さまざまな恵みを与えてくれる森も、人の手が入らなくなると、私たちの暮らしに悪影響を及ぼします。森の価値を生かすためには、不断の努力が必要です。そのために、大切な森の「健康」を守っている方々がいらっしゃいます。

働いている現場も森の奥深くであり、どのような人が、どのように働いているかを知る機会はなかなかありません。

今回は、「森を守る人」に話を聞いてみました。

プランナー

森林管理の計画を立てる プロフェッショナル

飛騨市森林組合 企画経営課 課長

上崎 強さん



■どんな仕事をしていますか？

森林所有者と共に山の管理・経営のお手伝いをする事務方です。実際に山に入って調査し、どの箇所を木を伐って搬出するか、育林するか、重機を入れたり木材搬出のための道をどこに造るかなど、現状に合った提案をします。言ってみれば営業でしょうか。承認していただいたら計画に沿って事業を進めます。19歳で当時の宮川村森林組合に入り、今年で25年目を迎えました。

■どんなところにやりがいを感じますか？

それぞれの地区ごとの山を自分の手で管理し、設計して道を造ったりして価値のある山にし、よみがえらせていくことにやりがいを感じます。高齢になって山へ入れなくなり、「気になっどるけど行けない」と話す所有者の方は結構いらっしゃるのですが、提案の前にくまなく山を歩いて現状を答えられるように心がけています。感謝していただけることもありますよ。

■次世代の人に伝えたいことは？

山は、特に人工林は手入れをしないと、薄暗くて風通しが悪く、じめじめして木にコケが生えるような、魅力のない山になってしまいます。地力が落ちると倒木も増え、災害の原因にもなります。まずは、地域の安全や景観を守るためにも、地元の人や自然について知ってほしいです。そして、山へ入って自然に興味をもってもらいたいです。

今は木を伐れる人が少なくなってきています。経験を積めば独り立ちもできます。広大な山に対して関わる人が少ないので、仕事は豊富にあります。これからもずっと続く仕事だと思いますよ。



施工管理

現場の司令塔

飛騨市森林組合 事業管理課 課長

新田 克之さん



■どんなお仕事をしていますか？

プランナーが立てた計画やスケジュールに沿って効率的に木を伐採したり、市場で販売してより収益や生産性をあげるためのシステムを組んだりするなど、施工管理から工程管理まで全般を担当しています。

■どんなところにやりがいを感じますか？

伐って出荷した木が高く売れた時ですね。木を伐ってから出荷するまで、どうやれば効率的に流れるかをトータルで考えてシステムを作り、それがばっちりハマって生産性がすごく上がった時は楽しいです。非常に効率的なトヨタ方式を学んで、それを生かしているのが嬉しいです。

■次世代の人に伝えたいことは？

以前、スイスのフォレスターから「とにかく目標をもってやれ」と言われました。補助金にしても、ただもらうのでなく、「今後こうしていきたい、だからこうする」と目標と目的をはっきりさせて事業を進めることが大事だと思います。

あと、飛騨市が進めている広葉樹の施業については、取り組んでいる自治体がほとんどないです。つまり、実験もされていないし、失敗例も成功例もほとんどありません。だから飛騨市に試験地を作って実験をして、データを蓄積していく。失敗したら失敗したで、それも貴重なデータになります。それを私たちがやって、いろんなデータと、そこから考えられる施業の仕方を次世代に残してあげたいと考えています。

作業・オペレーター

巨大な機械を巧みに操る職人

飛騨市森林組合 事業管理課 リーダー

松井 博之さん



■どんなお仕事をしていますか？

ハーベスターやタワーヤーダーなど、さまざまな高性能林業機械を操作しながら、現場で木の伐採から玉切り、搬出まで全般にわたって作業をしています。

■大変さを感じるのとはどんな時ですか？

現場での仕事なので、やっぱり季節ごとの気候でしようか。夏は熱中症、冬は積雪。特に冬は、朝現場へ行く時はなんともなかったのに、帰りは不安になるくらい積もっていることもありますね。あとは体力的なこと。40歳を過ぎてからは、朝起きる時に腰が痛いので、少しずつ動かしてから起きるようにしています。ただ、20年間という長い間、働き続けてこれたのは、やっぱり事故などで大きな怪我がなかったからです。それは先輩や周りの方々のおかげだと考えています。

■どんなところにやりがいを感じますか？

今は、昔よりも木を伐る人が少なくなってきているので、こうして現場で木を伐ることが、地域に貢献できているんじゃないかと考えています。市場に木材を出して、山の環境を守って、地域での災害を防ぐことにもつながっていくことで、皆さんから喜んでもらえるのが嬉しいです。

■次世代の人に伝えたいことは？

自分はまだまだ経験不足なので、次世代の人に伝えられるようなことは、まだ無いんです。これからも先輩方から教えてもらって経験を積んで、成長していこうと思っています。



林業の仕事は、 将来的に どうなりますか？

これまで人が手を入れ、育ててきた木が収穫時期に入っています。こうした木を伐り、出荷して売ることによって収入が得られます。

国の施策の影響や外材が多く輸入された影響などで、数十年前と比較すると価格は下がりましたが、最新の高性能林業機械の導入などで作業を効率化したり、市場での売買をシステム化することで生産性が上がり、近年は市場の動向もありますが、国内産木材の需要は増えています。

また、山の所有者が高齢化して自分では管理ができなくなって荒れてしまい、山自体の価値が下がってしまったり、山地の境界の問題など相続がうまくいかず、結局は放置されてしまうような事例も多く見られています。

近年、環境保護の重要性が叫ばれたり、森林が地域の人の暮らしを守る多面的機能が評価されるようになりました。国や自治体が打ち出す新たな施策も出てきています。林業に携わる人の担う役割は増えており、寄せられる期待も大きくなってきています。

ところが、広大な面積を占める「資源」である森林を前にしながら、少子化や人口減少の影響などもあり、林業に携わる人の数は減り、人手不足となっています。林業人材を求める声は多く、国や自治体でもさまざまな支援策を打ち出しているところです。



林業への就職について 知る機会は ありますか？



中学生を対象にした職業体験、大学生を対象にしたインターンシップなどを受け入れている市内の事業所があり、実際に働いている人から生の声を聞ける機会があります。また、高校生向けの進路相談会、一般求人者向けの説明会などに参加することもできます。詳細は、林業振興課へお問い合わせください。

多様な広葉樹の 魅力を伝える ワークショップを 開催します



飛騨市産広葉樹を使って自分だけの木製品を作るワークショップを今年度も計画しています（来年2月～3月ころ飛騨市図書館にて）。詳細については、内容が決定次第、市ホームページ等でお知らせしますのでぜひご参加ください。



林業の他、森や自然に関する仕事は多岐にわたります。また、さまざまな取り組みも飛騨市内で行われています。関心のある方は、林業振興課までご連絡ください。

問 林業振興課 0577-62-8905